

2 単位互換，単位認定等

(1) 国内外の大学等と単位互換を行っている大学院研究科にあつては，実施している 単位互換方法の適切性

現状の説明

現在，大学院研究科での国内外の大学等との単位互換は，実施していない。

点検・評価 長所と問題点 将来の改善・改革に向けた方策

本学で実施している文部科学省助成学術フロンティア研究は，法人傘下の東京農業大学との共同研究が多く，今後これらの共同研究が継続される予定をふまえると，研究に参画している大学院生の教育基盤として同大学研究科と情報処理や環境情報に関連する科目の単位認定制度を検討する必要があると考える。

3 社会人学生，外国人留学生等への教育上の配慮

(1) 社会人，外国人留学生に対する教育課程編成，教育研究指導への配慮

現状の説明

大学院では社会人，外国人留学生を積極的に受け入れている。特に，博士後期課程の受け入れ者は，ほとんどが社会人と一部外国人留学生である。

点検・評価 長所と問題点

外国人留学生のためには，入学準備として研究生受け入れ制度があり，大学院では平成9年から年1回の選考で受け入れる体制を実施している。ただし，研究生として留学生を受け入れることについては，その選考方法が簡便であることから，在留資格，受け入れ時期等についての問題点がある。

4 研究指導等

(1) 教育課程の展開並びに学位論文の作成等を通じた研究指導の適切性

現状の説明

博士前期課程においては，主に1年次において特論授業を受講し，2年次は特論演習を中心として指導教授の研究指導に重点が置かれる。学位論文の作成等を通じた研究指導については，指導教授の他に2名の副担当指導教員を置くことにより指導の充実を期している。

後期課程においては，さらに専門性を深めるべく，単位制は敷かず，指導教授の研究指導に重点が置かれる。1年次終了時に問題設定能力の基礎審査，2年次に問題設定能力および研究方法の審査，3年次前期に研究内容の公開および審査が行っている。博士論文は3年次後期に完成度の審査を行う。課程博士の公聴会は審査後に行っている。

点検・評価 **長所と問題点** **将来の改善・改革に向けた方策**

博士前期課程においては、論文の最終審査段階以外での実質的な指導は主担当教員に集中しているのが実情である。現在の特論演習を関連指導教員の合同での指導の場となるよう、平成17年度以降の課程の再検討を進めている。

後期課程においては、時間的制約の大きい社会人学生が多く、ほとんど学生個別の指導が行われている。関連分野の学生全体が集まり、討議しながらお互いに切磋琢磨できる場が不足しているのが実情である。

B 教育・研究指導方法の改善

1 教育・研究指導の改善

(1) 教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み状況

現状の説明

学部では教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組みとして、学生による授業評価を義務付けて実施しているが、大学院では未実施である。

点検・評価 **長所と問題点** **将来の改善・改革に向けた方策**

学生による授業評価が未実施である理由は、特論科目の受講者が数名程度の登録である場合が多く、無記名での評価が実質困難なことに起因している。今後少人数教育にふさわしい評価方法を検討する必要がある。

(2) シラバスの適切性

現状の説明

大学院特論科目については、学習課題を記載した講義計画、講義の方法ならびに評価方法を明記している。

点検・評価 **長所と問題点** **将来の改善・改革に向けた方策**

特論受講者は1名から数名程度であることが多い。そのような講義では、効果的な教育を実施するためには、講義計画等を明記しているにも関わらず、受講者の知識レベルに合わせながら、講義内容を再検討して実施される場合が多い。学生にとっては教員との緊密な関係による教育が受けられ、教育効果は高いが、本来のシラバスの内容まで達しない場合も多く、大学院講義としてのレベルを保持するための検討が必要である。